

調理動作に着目したレシピ表現手法とその活用に関する研究

大杉 隆文 松下 光範 (関西大学大学院 知識情報学専攻)

背景

大目的：失敗を低減することができる料理レシピの提示

料理歴が短い人は料理レシピを参考にしても自身が思った通りに調理できない

問題：失敗が起こる要因がたくさん存在（曖昧性のある言葉の存在，知識・経験の不足，難易度の不明さ）

既存のレシピ



全体の流れを掴めない
どこが大事なかがわからない

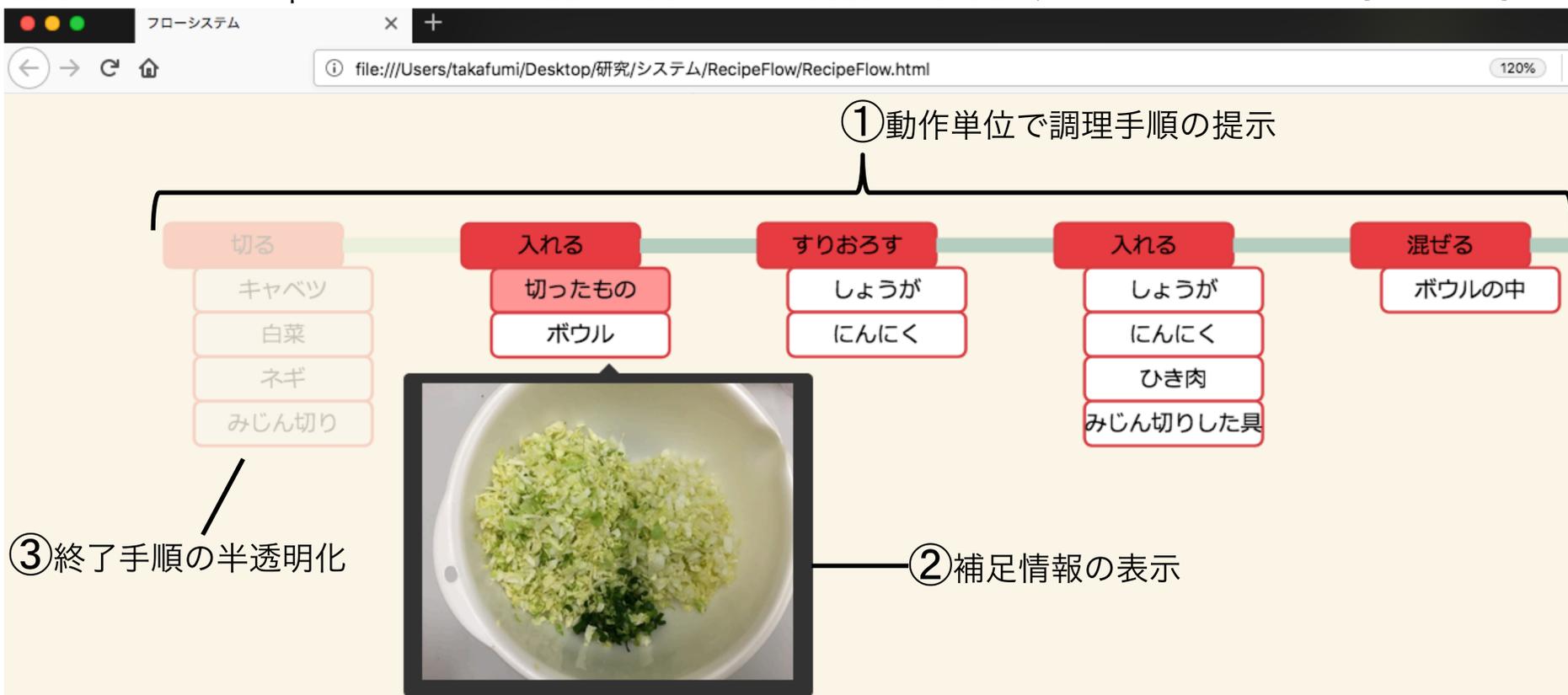
小目的：動作ごとにレシピを表現することによってどこが失敗の要因になり得るか明確にする

提案手法

調理の要素の中でも動作が重要と仮定し，動作を中心にした料理レシピの提示を行う

- 調理者は作りたい料理に必要な工程，調理工程のイメージを把握可能
- ・ 動作をブロックごとに分割することでレシピの要素を扱うことが可能
 - どの動作が難しいか，道具の置き換え，など支援したい場所に焦点を当てることができる

使用データ：Cookpadのレシピから調理に関係のある用語だけ抽出し，タグづけしたデータ [前田：2017]



プレ実験

テキストと画像ベースのレシピであるCookpadと提案システムを使用した比較実験

対象：大学生 6人 (Cookpad使用群 3人，提案システム使用群 3人)

目的：本実験のために必要な部分の洗い出し タスク：餃子20個の調理

- ・ 料理歴が短い人は明確な基準がない工程の場合，工程のゴールがわからない
→ 細かい補足説明や画像を表示させることでイメージさせる
- ・ 料理歴が短い人は現在の手順とその付近の手順を見る傾向がある
→ 段階ごとに意識させる(材料を切る，火を使うなど)
- ・ 完成した料理に対して定量的な基準が必要 → 官能評価を行う必要がある